

3. 日本周辺高度回遊性魚類資源調査委託事業

高木信夫・水田浩二*1・山本加奈*1

本調査は、マグロ類資源の科学的データを完備し、資源の安定的な利用を確保することを目的として、平成9年度から全国的規模で実施されているもので、現在はJV方式によって実施している。本年度は、漁獲状況調査、生物測定調査を実施した。なお、詳細については、「平成27年度日本周辺国際魚類資源調査委託事業報告書、平成28年2月、国立研究開発法人水産総合研究センター」に報告した。

I. 漁獲状況調査

方法

下記に示した各海区標本漁協の平成27年1～12月分について、曳縄漁業におけるクロマグロの銘柄別漁獲量を収集した。また、長崎魚市においてマグロ類・カジキ類の水揚げ量を収集した。

〔クロマグロの調査漁協〕

対馬海区：上対馬町漁協，上県町漁協，美津島町漁協尾崎支所，巖原町漁協阿連支所

壱岐海区：箱崎漁協

北松海区：宇久小値賀漁協

五島海区：五島漁協

結果

平成27年の漁獲状況を対馬標本漁協と五島標本漁協の合計で見ると、平成26年の246トンに対し平成27年は

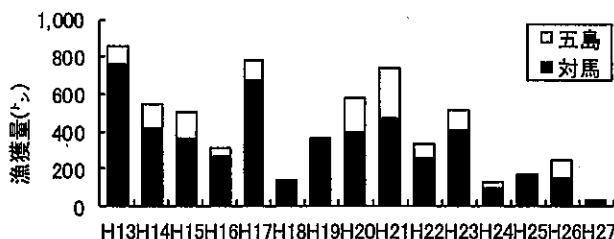


図1 対馬および五島標本漁協によるクロマグロ漁獲量経年変化

31トンで、前年を大きく下回った (図1)。

これは、対馬標本漁協・五島標本漁協ともにまとまった水揚げがみられなかったためである (図2, 3)。

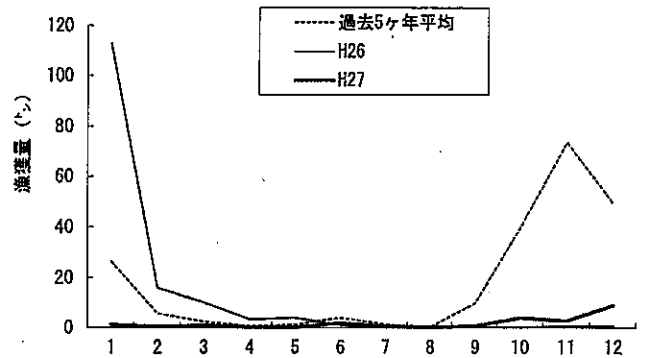


図2 対馬標本漁協におけるクロマグロ漁獲量経月変化

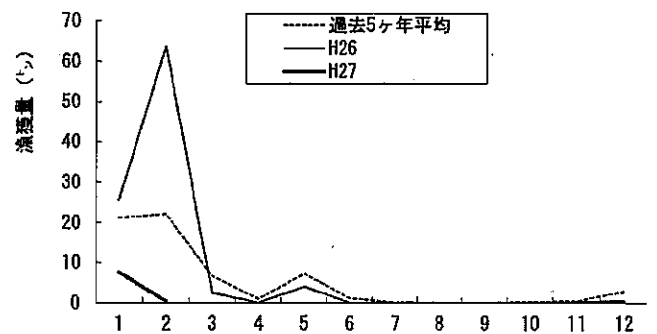


図3 五島標本漁協におけるクロマグロ漁獲量経月変化

平成27年の長崎魚市に水揚げされるマグロ類は、大目流網のほか、県外船の近海かつお一本釣りなどで漁獲されたものが多く水揚げされる。水揚げされるまぐろ類としては、クロマグロ、キハダ、コシナガが多かった。クロマグロは冬～春季に大目流網で、またキハダは夏季に近海かつお一本釣り船で漁獲された。またコシナガは夏季～秋季に近海かつお一本釣り船で水揚げされた。

平成27年の長崎魚市へのカジキ類の水揚げ量を大目流網についてみると、東シナ海での主漁期となったのは、1～5月で、水揚げされる魚種としてはマカジキがほとんどを占めた (図4)。

*1 対馬水産業普及指導センター

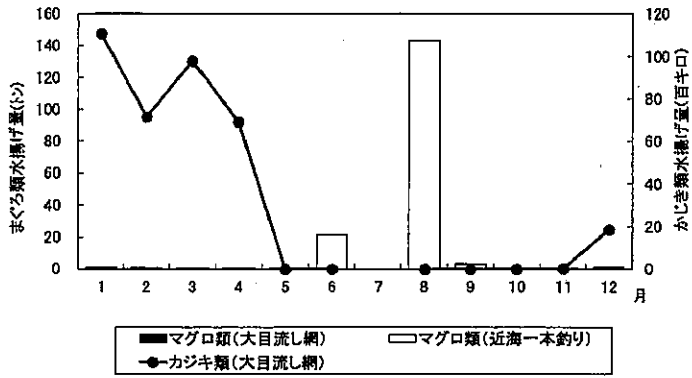


図4 長崎魚市における漁業種類別カジキ類・マグロ類の水揚量

II. 生物測定調査

結果

対馬標本漁協におけるヨコワ尾叉長組成を図5に示した。6月の尾叉長モードは58cmに、1月と12月に49cmに

尾叉長のモードがみられた。なお、尾叉長58cmサイズの重量は概ね3kg台、尾叉長49cmサイズの重量は概ね2kg台であった。

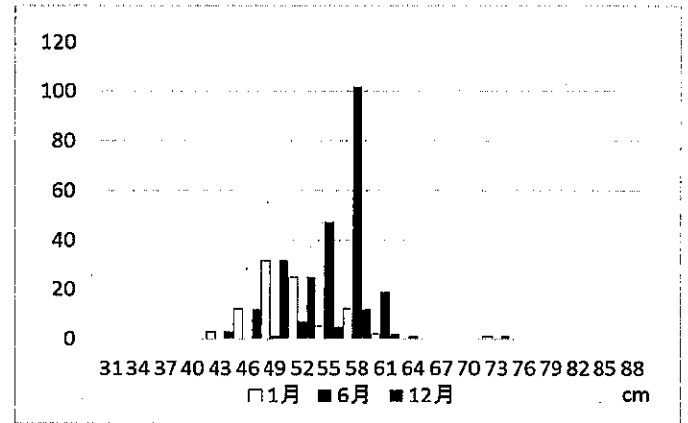


図5 対馬標本漁協におけるヨコワ尾叉長組成